



大栄建設の強みにつながる第2工事部について

平成9(1997)年から平成17(2005)年まであった「第2工事部」。
現在の会社の在り方にも大きく関係している同工事部について、
有壁茂執行役員と秋山博一取締役土木部長、そして社長に語ってもらいました。
(座談会は敬称略)

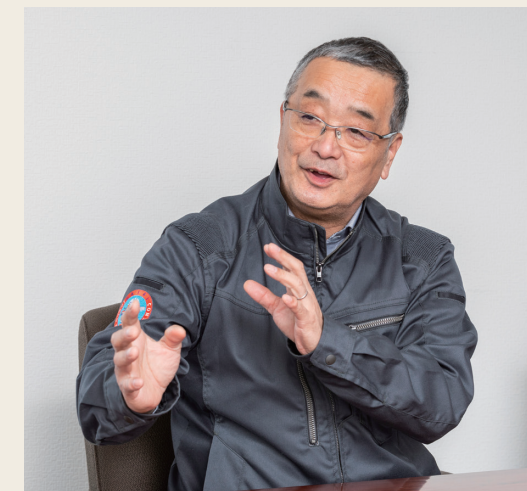
入社して、 一般土木を手がける 第2工事部が誕生(有壁)

一有壁さんと秋山さんの入社の際の経緯を教えてくださいませんか？

有壁 現会長が社長だったときに、声をかけてもらって入社しました。平成8年、39歳のときかな。もともと元請会社において、大栄建設は取引先だったんです。元請にいたときは、一般土木の河川工事などを主に担当していました。

秋山 僕は有壁さんと同じ元請にいて一緒に仕事をしていたのですが、有壁さんがいなくなったら、仕事をしていても楽しくなくて…。それで、平成9年の春、有壁さんを追いかけて入社しました。有壁さんには一番怒られて、一番褒めてもらったんですけど、やっぱり一緒に仕事がしたいなと思ったんです。

社長 有壁さんは親分肌。面倒見がいいというか、厳しいことも言うけれど、周りの人を大事にする人なのです。実は僕、高校生のときに有壁さんたちのいた会社でア



有壁 茂 執行役員

ルバイトさせてもらったんですけど、有壁さんに勉強を教えてもらってました(笑)。
一お2人の入社と第2工事部は関係あるのですか？

有壁 関係あると言えば、関係あるかな。昔は新しいインフラ整備の仕事がたくさんありましたが、札幌の下水道普及率が99.8%という状況になってくると、新規はほとんどなくて、古い管の入れ替えや修理の仕事しか入ってこないわけですよ。それで、現会長が管を通すための推進の仕事だけだと先細りになると考え、一般土木も

始めるために第2工事部を立ち上げたのです。

一第2工事部は一般土木を手がける部署だったのですね。最初の仕事は覚えていますか？

有壁 新琴似のJRの高架を作ったのが最初だったかな。本社のある地域の仕事でしたし、思い出深いですね。そのあとは、いろいろやりましたね。一般土木も特殊土木も、業界以外の人が見たら似たような作業をやっているように思われるだろうけれど、推進は横に掘っていき、一般土木は上から下に掘っていく。似て非なるものなんですよ。必要な資格も違いますし。

秋山 僕は、推進についてはこの会社に入ってから勉強しましたね。

工事を一般土木と合わせて 請けられるのは、 第2工事部のおかげ(社長)

一第2工事部は8年ほどでなくなったそうですが…。

有壁 景気が悪くなって、一般土木の仕事

はありましたが、やっても儲けが出ない状況に。それで、得意な推進に絞ったほうがいいのではとなり、部自体はなくなりました。

社長 時代の流れもありましたしね。ただ、第2工事部があったことで、下水道の構造物なども手掛けることができるようになり、逆にそれがうちの強みになりました。

有壁 推進だけでなく、周辺のことでもできるから、仕事を選ばなくてもよくなりました。他社と価格競争をすることなく、ほか



秋山 博一 取締役 土木部長

がやれない仕事を受注できるようになりましたね。

社長 部としての形はなくなりましたが、今、一般土木と合わせて請け負うことができるようになったのは、第2工事部があったから。全国でもこの様なスタイルでできるのはうちだけの強みです。

充実感を得られるのが会社の いいところ(秋山)

有壁 工事を請け負うだけでなく、積算もやるとか管理の仕方とか、業界的に見てもほかはやらないことをやる会社なんですよ、ここは。会長も社長も常に先を見ているし、情報収集も早い。業務内容もそうですが、ユニフォームを揃えたり、働き方を見直したりね。いまだに土木業界と言うと低く見られがちですけど、うちのスタッフはみんな勉強して国家資格をたくさん持っているし、真面目だし、僕は素晴らしいと思っています。それは、朱に交われれば赤くなるで、会長や社長が人を大事にし、真面目に仕事をする人だからだと思います。



日給だった従業員(作業員)の若い子が、頑張って職員になるケースもたくさんありますね。

一会社にこれから期待することがあればひと言お願いします。

秋山 忙しいですけど、楽しいこともたくさんあって、充実感を得られるのがいいところだと思っているので、これからもそうあってほしいと思います。

有壁 社長にも話しているのですが、働き方がさらに改善されて、みんなが自分の身内に胸を張って、「いい会社だからおいでよ」と言えるようになったらいいですね。